

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成24年8月9日(2012.8.9)

【公表番号】特表2011-525210(P2011-525210A)

【公表日】平成23年9月15日(2011.9.15)

【年通号数】公開・登録公報2011-037

【出願番号】特願2011-514832(P2011-514832)

【国際特許分類】

C 1 0 M 173/00 (2006.01)

C 0 8 J 3/02 (2006.01)

C 1 0 M 101/02 (2006.01)

C 1 0 M 129/76 (2006.01)

C 1 0 M 129/06 (2006.01)

C 1 0 M 129/40 (2006.01)

C 1 0 M 135/10 (2006.01)

C 1 0 M 145/04 (2006.01)

C 1 0 M 145/40 (2006.01)

C 1 0 M 149/10 (2006.01)

C 1 0 M 129/24 (2006.01)

C 1 0 M 129/50 (2006.01)

C 1 0 M 135/36 (2006.01)

C 1 0 M 133/06 (2006.01)

C 1 0 M 133/04 (2006.01)

C 1 0 M 129/32 (2006.01)

C 1 0 N 20/00 (2006.01)

C 1 0 N 20/02 (2006.01)

C 1 0 N 30/00 (2006.01)

C 1 0 N 30/06 (2006.01)

C 1 0 N 30/12 (2006.01)

C 1 0 N 40/00 (2006.01)

【 F I 】

C 1 0 M 173/00

C 0 8 J 3/02 C F J

C 1 0 M 101/02

C 1 0 M 129/76

C 1 0 M 129/06

C 1 0 M 129/40

C 1 0 M 135/10

C 1 0 M 145/04

C 1 0 M 145/40

C 1 0 M 149/10

C 1 0 M 129/24

C 1 0 M 129/50

C 1 0 M 135/36

C 1 0 M 133/06

C 1 0 M 133/04

C 1 0 M 129/32

C 1 0 N 20:00 C

C 1 0 N 20:02

C 1 0 N	30:00	A
C 1 0 N	30:06	
C 1 0 N	30:12	
C 1 0 N	40:00	Z

【手続補正書】

【提出日】平成24年6月19日(2012.6.19)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0064

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0064】

毒性の検証：Shanghai Municipal Center for Disease Prevention and Controlにより毒性試験を実施した。Disinfecting Technology Standard, 2002, Ministry of Health of Chinaの2.3.1章、2.3.3章、2.3.8.4章の対応するセクションに従って試験を実施した。結果は、この配合は皮膚を刺激しない、又は小核誘導効果を有しない非毒性製品であった。

本願発明に関連する発明の実施形態について以下に列挙する。

[実施形態1]

医療又は食品器具用の水性潤滑剤エマルジョンであって、

(a) 5重量%～30重量%の鉱物油と、

(b) 5重量%～30重量%の、

(i) ソルビタン脂肪酸エステル及びポリオキシエチレンソルビタン脂肪酸エステルの組み合わせ、又は

(ii) オレイルアルコールエーテル及びポリオキシエチレンソルビタン脂肪酸エステルの組み合わせ、又は

(iii) ソルビタン脂肪酸エステル及びトリエタノールアミンオレエートの組み合わせから成る乳化剤系であって、前記組み合わせの質量比がいずれも2：8～8：2の範囲である乳化剤系と、

(c) 0.5重量%～5重量%の、脂肪族アルコール、長鎖脂肪酸、及びジイソオクチルスクシネートスルホネートから成る群から選択される1種以上の補助乳化剤 (coemulsifier) と、

(d) 残部の水、を含むエマルジョン。

[実施形態2]

エマルジョンの総重量の0.1重量%～2重量%の含有量の防錆剤である添加剤を更に含む、実施形態1に記載の医療又は食品器具用水性潤滑剤エマルジョン。

[実施形態3]

前記防錆剤が、スルホネート、有機カルボン酸及びその塩類、有機リン酸塩、エステル、有機アミン、及び複素環式化合物から成る群から選択される1種以上である、実施形態2に記載の医療又は食品器具用水性潤滑剤エマルジョン。

[実施形態4]

被膜形成剤、保存剤、及び消泡剤から成る群から選択される1種以上の助剤である添加剤を更に含む、実施形態1に記載の医療又は食品器具用水性潤滑剤エマルジョン。

[実施形態5]

前記被膜形成剤が、ポリビニルアルコール、水溶性セルロース及びその誘導体、並びにポリビニルピロリドンの群から選択される1種以上である、実施形態4に記載の医療又は食品器具用水性潤滑剤エマルジョン。

[実施形態6]

前記保存剤が、アルコール又はアルデヒド型保存剤、安息香酸及びその誘導体、チアゾリドン／イソチアゾリドン、ソルビン酸及びその塩類、ヘキサメチレンアミン、ヒドロキシメチルグリシン酸ナトリウム、並びにウンデシレン酸及びその誘導体等から成る群から選択される１種以上である、実施形態４に記載の医療又は食品器具用水性潤滑剤エマルション。

〔実施形態７〕

前記消泡剤がポリエーテル型化合物である、実施形態４に記載の医療又は食品器具用水性潤滑剤エマルション。

〔実施形態８〕

前記鉱物油が、 40°C で $10\sim 50\text{ mm}^2/\text{s}$ の粘度、及び 20°C で $0.82\sim 0.86\text{ kg/m}^3$ の密度を有する飽和炭化水素型鉱物油である、実施形態１に記載の医療又は食品器具用水性潤滑剤エマルション。

〔実施形態９〕

前記鉱物油が、 40°C で $10\sim 30\text{ mm}^2/\text{s}$ の粘度、及び 20°C で $0.84\sim 0.86\text{ kg/m}^3$ の密度を有する飽和炭化水素型鉱物油である、実施形態１に記載の医療又は食品器具用水性潤滑剤エマルション。

〔実施形態１０〕

前記脂肪族アルコールが、 $10\sim 30$ 炭素原子の脂肪炭素鎖を有する直鎖又は分枝鎖脂肪族アルコールである、実施形態１に記載の医療又は食品器具用水性潤滑剤エマルション。

〔実施形態１１〕

前記長鎖脂肪酸が、 $10\sim 30$ 炭素原子の脂肪炭素鎖を有する飽和又は不飽和直鎖脂肪酸である、実施形態１に記載の医療又は食品器具用水性潤滑剤エマルション。

〔実施形態１２〕

医療又は食品器具用水性潤滑剤エマルションであって、

(a) ５重量％～３０重量％の鉱物油と、

(b) ５重量％～３０重量％の、ソルビタン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレンソルビタン脂肪酸エステル、オレイルアルコールエーテル、トリエタノールアミンオレエートから成る群から選択される２種の乳化剤から成る乳化剤系であって、前記２種の乳化剤の質量比が $2:8\sim 8:2$ の範囲である乳化剤系と、

(c) 0.5 重量％～ 5 重量％の、脂肪族アルコール、長鎖脂肪酸、及びジイソオクチルスクシネートスルホネートから成る群から選択される１種以上の補助乳化剤 (coemulsifier) と、

(d) 水と、を含むエマルション。

〔実施形態１３〕

医療又は食品器具を洗浄し、次いで前記医療又は食品器具を実施形態１～１２のいずれか一項に記載の水性潤滑剤エマルションで処理することを含む、医療又は食品器具を洗浄する方法。

【手続補正２】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項１】

医療又は食品器具用の水性潤滑剤エマルションであって、

(a) ５重量％～３０重量％の鉱物油と、

(b) ５重量％～３０重量％の、

(i) ソルビタン脂肪酸エステル及びポリオキシエチレンソルビタン脂肪酸エステルの組み合わせ、又は

(i i) オレイルアルコールエーテル及びポリオキシエチレンソルビタン脂肪酸エステルとの組み合わせ、又は

(i i i) ソルビタン脂肪酸エステル及びトリエタノールアミンオレエートの組み合わせから成る乳化剤系であって、前記組み合わせの質量比がいずれも2：8～8：2の範囲である乳化剤系と、

(c) 0.5重量%～5重量%の、脂肪族アルコール、長鎖脂肪酸、及びジイソオクタルスクシネートスルホネートから成る群から選択される1種以上の補助乳化剤 (coemulsifier) と、

(d) 残部の水、を含むエマルジョン。

【請求項2】

エマルジョンの総重量の0.1重量%～2重量%の含有量の防錆剤である添加剤を更に含み、前記防錆剤が、スルホネート、有機カルボン酸及びその塩類、有機リン酸塩、エステル、有機アミン、及び複素環式化合物から成る群から選択される1種以上である、請求項1に記載の医療又は食品器具用水性潤滑剤エマルジョン。

【請求項3】

添加剤を更に含み、前記添加剤が、

ポリビニルアルコール、水溶性セルロース及びその誘導体、並びにポリビニルピロリドンの群から選択される1種以上である、被膜形成剤、

アルコール又はアルデヒド型保存剤、安息香酸及びその誘導体、チアゾリドン／イソチアゾリドン、ソルビン酸及びその塩類、ヘキサメチレンアミン、ヒドロキシメチルグリシン酸ナトリウム、並びにウンデシレン酸及びその誘導体から成る群から選択される1種以上である、保存剤、並びに

ポリエーテル型化合物である、消泡剤、から成る群から選択される1種以上の助剤である、請求項1に記載の医療又は食品器具用水性潤滑剤エマルジョン。

【請求項4】

前記鉱物油が、40℃で10～50mm²/sの粘度、及び20℃で0.82～0.86kg/m³の密度を有する飽和炭化水素型鉱物油である、請求項1に記載の医療又は食品器具用水性潤滑剤エマルジョン。

【請求項5】

前記脂肪族アルコールが、10～30炭素原子の脂肪炭素鎖を有する直鎖又は分枝鎖脂肪族アルコールである、請求項1に記載の医療又は食品器具用水性潤滑剤エマルジョン。

【請求項6】

医療又は食品器具用水性潤滑剤エマルジョンであって、

(a) 5重量%～30重量%の鉱物油と、

(b) 5重量%～30重量%の、ソルビタン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレンソルビタン脂肪酸エステル、オレイルアルコールエーテル、トリエタノールアミンオレエートから成る群から選択される2種の乳化剤から成る乳化剤系であって、前記2種の乳化剤の質量比が2：8～8：2の範囲である乳化剤系と、

(c) 0.5重量%～5重量%の、脂肪族アルコール、長鎖脂肪酸、及びジイソオクタルスクシネートスルホネートから成る群から選択される1種以上の補助乳化剤 (coemulsifier) と、

(d) 水と、を含むエマルジョン。

【請求項7】

医療又は食品器具を洗浄し、次いで前記医療又は食品器具を請求項1～6のいずれか一項に記載の水性潤滑剤エマルジョンで処理することを含む、医療又は食品器具を洗浄する方法。